

# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

試読・購読はこちらから



12月7日号（291号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

## 核兵器廃絶を目指す科学者 鈴木達治郎さんに聞く

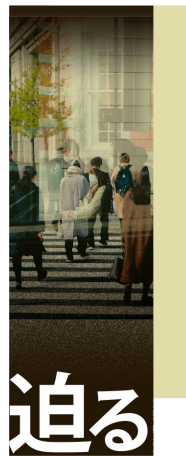
7日(日)=1、3面



核兵器廃絶を目指す科学者たちの団体で、日本人で初めて同会議の役員になった鈴木達治郎さんⅡ写真Ⅱも参加していました。そこで「憲法9条の精神を世界に広めるときです」とスピーチしました。

鈴木さんは原子力工学が専門で、原発や核について熟知しています。核燃サイクルの推進に肯定的な時期もありましたが、米国での留学などを経て次第に疑問を持つようになります。そして「原子力ムラ」に身を置きながら、核燃サイクルに異議をとえようになりました。

2009年の民主党政権誕生以降、国の原子力委員を務めますが、11年3月の福島第1原発事故により、自身の責任を痛感し、「脱原発」へと舵を切りました。1人の科学者の葛藤と、核廃絶への信念に迫ります。



迫る

先月初旬、国際組織「パグウォッシュ会議」の世界大会が広島で開かれました。

## 「サイバー攻撃」の脅威 7日(日)=総合面

企業を狙ったサイバー攻撃が猛威を振るっています。デジタル化の進展で、あらゆるものがインターネットにつながる時代。業種や規模にかかわらず、企業や団体は攻撃のリスクにさらされています。ひとたび被害に遭えば影響は長期化する傾向にあり、多額の損失が生じることも珍しくありません。目に見えない脅威に對して、どう備えるべきなのか。被害の状況や背景をQ&A形式で解説します。



企業を狙ったサイバー攻撃が猛威を振るっています。デジタル化の進展で、あらゆるものがインターネットにつながる時代。業種や規模にかかわらず、企業や団体は攻撃のリスクにさらされています。ひとたび被害に遭えば影響は長期化する傾向にあり、多額の損失が生じることも珍しくありません。目に見えない脅威に對して、どう備えるべきなのか。被害の状況や背景をQ&A形式で解説します。



COP30の会場

ブラジル・アマゾン河口の都市ベレンで11月に開かれた国連気候変動枠組み条約第30回締約国会議（COP30）は、焦点となった「脱化石燃料ロードマップ」の策定に合意できず、成果の乏しい会合となりました。

一方で、「グローバルサウス」と呼ばれる新興・途上国が熱帯林保全に役立てる新たな国際基金の創設を主導するなど存在感を発揮。交渉の地で、3人の専門家は新たな潮流をどう見つめたのでしょうか。

論点

COP30にみる  
気候変動対策の新潮流

10日(水)Ⅱ総合面

## 「見えない」病、どう闘う 東えりかさんに聞く

8日(月)=タ刊2面

書評家の東えりかさんⅡ写真Ⅱは2年前、夫保雄さんを原発不明がんで亡くしました。検査をしても病名が分からない。どこに相談したら良いのかも分からない。つらく悲しい日々をつづった著書「見えない死神 原発不明がん、百六十日の記録」が反響を呼んでいます。

「もつとできることがあったはず」。夫をみとった後、自身への怒りと後悔を感じたという東さん。インタビュでその思いに迫ります。

